

理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名：池田 幸雄

所属：横浜市立文庫小学校

課題名：地域の環境に学び、環境を大切にすることの育成

1. 課題の主旨

本校周辺には、称名寺・金沢文庫などの文化財や海の公園、柴漁港などがあり、自然環境や社会環境に恵まれている。そこで本校では、学校教育目標として、「地域の人、自然、文化を取り入れた学習を進めます。主体的に学習に取り組めるよう、学習環境の充実を図ります。」を合い言葉として「友達がすき 学校がすき この『まち』がすき」を設定した。具体的には、各教科等や総合的な学習の時間を通して「地域の人、もの、ことを有効に活用した単元」の開発を図り、学習をいっそう充実させると共に、子どもたち一人ひとりが自分たちの住む「文庫のまち」に愛着をもつことができるようにしたいと考えた。これらの取組をさらに重点化し、地域環境に対する見方・考え方をより深め、地域環境に働きかける子どもを育てることをねらって、本申請テーマを設定した。

2. 活動状況

①地域環境に学び、地域環境を大切にすることの育成のための学習展開について（生活科、総合的な学習での実践例）

【1年生】 単元「しぜんとなかよしたんけんたい」では、年間を通して地域の自然環境とふれあうことができる学習を展開した。具体的には、称名寺や海の公園などの自然の様子や季節の変化に目を向け、落ち葉や木の実などの自然物を使って遊んだり、虫などの生き物を飼育し生命のさまざまな有り様にふれたりする学習などを行った。

【2年生】 単元「私が見つけた文庫のまち」では、まち探検を通して、まちのさまざまな場所、自然、人々に親しみをもってかかわることができるような単元を展開した。具体的には、称名寺、海の公園、柴漁港などを探検し、まちの人、もの、ことへの気付きを深め、それを身近な人々に対して表現できるような学習などを行った。

【3年生】 単元「海の公園ワクワク探検隊」では、海の生き物や環境を自分たちの課題をもって調べる活動を通して、海や海の生き物を大切にしていこうとする態度を育てることができるような学習を展開した。具体的には、海の公園に出かけてその生き物に親しんだり学校で飼育したりするとともに、生き物、海草、海水、プランクトンなどについて詳しく調べて発表する、というような学習などを行った。

【4年生】 これまでに各教科等ですすめた「環境にかかわる学習」を、総合的な学習で深化発展させるような学習を展開した。具体的には、横浜G30運動をきっかけに循環型社会の実現に関心をもったり進んで行動したりする学習（社会科との関連）、まちにある海や山、自然の音から五感を通して感じたことを手作り楽器で表現する学習（音楽科との関連）などを行った。

【5年生】 4年生までの「環境にかかわる学習」を生かしながら、一人ひとりの子どもの問題意識を大

切にし学習を展開した。具体的には、海岸で自作の凧をあげることをきっかけにして「見えないエネルギー＝風力発電など」について追究する学習、身近な海に魚が戻ってくる環境づくりを目指して追究したり行動したりする学習、文庫の海にアマモを増やそうとする活動を通して様々な海洋生物が互いにつながり合っていることに気付く学習などを行った。

【6年生】5年生までの「環境にかかわる学習」を生かしながら、一人ひとりの子どもの問題意識を大切に、よりよいまちづくり・環境づくりを志向した学習を展開した。具体的には、ゴミのポイ捨てや不法投棄についての問題解決を目指した活動を通して「まちのよさや問題」に具体的に触れる学習、まちの歴史や開発について追究し「よりよい環境とは何か」について考えることを目指した学習などを行った。

【個別支援学級】まちにある畑「柴ファーム」などで野菜を栽培、収穫、調理するという活動を通して、まちの環境と具体的にふれあう学習を展開した。

②地域環境に学び、地域環境を大切にすることを育てるための指導計画作成、運営、改善について

- ・本校の総合的な学習の時間全体計画や生活科指導計画を環境教育の視点から見直し、実践を通して修正を加えている
- ・本校の環境教育全体計画をもとに、各学年の各教科等年間指導計画を作成し、実践を通して修正、改善を行っている
- ・文庫水族館などの学習環境整備を年間通して行っている（職員組織に学習環境部会を設置し研究に取り組んでいる）

3. 結果

本校の様々な実践により、子どもたちは「環境」という視点から「まち」を見直すことができた。

その結果、自分たちの周りの「まち」をより身近に感じ愛着をもつことができるようになってきている。同時に、「環境」を大切に守っていくことの大切さに気付くことができている。

主として高学年では、より広い視野から「環境」を考えたり、直接「環境」に働きかけたり、「環境」を守るための活動に進んで参加したりする子どもも見られた。

（金沢区地域振興課が行っているジュニアボランティアに進んで登録して休日などに活動したり、各地で行われている環境イベントに参加したりする子どもも多い。また、7月には金沢区及び横浜市資源循環局などによる環境セミナーが本校を会場に実施され多くの子どもが参加した。その他、環境展に作品を出品したり、学習成果を関東学院大学で発表したりしている。これらの実践が認められ、10月には横浜市環境行動賞を受賞した。） 今後も実践を重ねていきたい。

4. 今後の課題と発展

昨年度に引き続き、課題「地域の環境に学び、環境を大切にすることを育てる」

研究内容 ①地域の環境に学び、環境を大切にすることを育てるための学習展開を研究する

②地域の環境に学び、環境を大切にすることを育てるための指導計画を作成・運営・改善する

5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

◆タウンニュース（金沢区版）

タウンニュース連載企画 環境を知るキーワード 「環境教育ってなんだろう」

◆広報よこはま金沢区版

「わたしたち 悪ゴミバスターズ！」

◆金沢八景－東京湾アマモ場再生会議 主催

第3回 横浜・海の森づくりフォーラム ー協働で行う横浜の海辺づくり 現状とこれからー

「文庫の海にアマモを増やして、生き物をいっぱいにしよう！」

◆よこはま こども植物園だより

「文庫の海にアマモを増やして、生き物をいっぱいにしよう！」

◆神奈川新聞 平成18年7月27日付

「G30 私たちの提案」 6年児童作文 掲載